

## 序 文



今般講道館柔道科学研究会紀要の第5輯が出版されることになった。省みれば、1958年3月にその第1輯が上梓され、その後1963年7月に第2輯を、そして1969年9月に第3輯が発刊された。最後の第4輯は1972年11月に発行された。その後発行が途絶えたので、一部の方々からその後の様子を問合せられて来る書翰にも接した。

本紀要は執筆者は別として、その出版の事務は講道館の編集部が責任をもって之に当たったが、第4輯までは猪飼道夫博士が中心となられ、佐々龍雄博士松本芳三教授が若い学徒と共にその実務を処理された。周知の如く猪飼道夫博士は1972年1月に逝去されて、紀要の関係者は愛惜の思いを深くした。

前述の如く一般の本紀要に興味を抱かれる方々は、早く第5輯の刊行に着手する様すすめられた。科学研究会の長老である山田康博士も再三私に発行方の促進を申し出でられた。大きな研究団体なら経費人員等についても適当な処置ができるが、本研究会の如き、内容は別としてその運営については並々ならぬ苦労がある。出版部数もわずかであるが、海外の大学等から寄贈を希望される場合は、なるべくなら費用を当方で負担して便宜を計ってゐる。本紀要は内容が純学術書であり、一般には関心が少ないかも知れないが、柔道の基礎的、専門的な研究を推進する上で、それぞれに役立てて欲しいと考へる。

周知の如く1982年は講道館創立百年に当るのでその記念として本紀要の第6輯を上梓したいと考へてゐる。本紀要の第1輯の発行以来20年を経過したが、私は本紀要に対する各位の有形無形の御援助に対し心から御礼を申し上げ、今後とも御指導御援助のほどをお願いする次第である。

1978年3月

講道館長 嘉納履正